

御心という言葉は不思議な言葉ですが、一般的な日本語としても通用する言葉ではあると思います。殿様やらミカドやら、やんごとなき方のお考え、ご意志の意。聖書の言葉づかいにおいては、御心とは「神様の意志、決意、気持ち、思い、願望、要望、命令・・・」。本当に広い意味をもっている。神様のお心の中にあることのすべて、人間には計り知れない。

クリスチャンの方は「御心ならば、この願いを叶えてください」というような慎み深い祈りをするものですね。私も、先輩クリスチャンがそういう風に祈っているのを聞いて、面白いなあと思いつつながら真似したものです。だんだんと自分で聖書を勉強して、祈りということについても考えを持つようになってきますと、「御心ならば・・・」というのは必ずしもベストとは言えないかな、もっと図々しく祈ることへと神様は招いておられるのじゃないかなと思いつつ、「私のこの願いが、あなたの御心にかないますように」もっと図々しく「御心を変えてください、こちらに向けてください」なんて、自分なりに工夫して祈るようになりました。どっちがいい悪いということではないと思いますが、いずれにしても慎み深い祈りですね。「御心」が優先されるということが前提にある。こういう祈りに象徴されるように、神様の御心と自分の心が一致するということは、私たちクリスチャンの切なる願いであります。

前回、御国が来ますようにという祈りに教えられました。少し神学的なイメージを膨らませて、終わりの日に到来する新しい天と新しい地に思いをはせました。それは、罪のない世界。争いもない、貧困もない、病もない、死の恐怖もない。すべての涙がぬぐわれて、罪の支配から完全に解放されて、愛が満ちるのです。その時が来たら、イエスを信じる者は、栄光の体へとよみがえって、そういう天の国の一員として招き入れられて、永遠の喜びと安息に生きることになるのです。そういう希望の時、完成の時が必ず来ることを信じて、神の定められた時を祈って待つ。それが「御国が来ますように」という祈りの姿勢ですと申し上げました。この祈りの向こうに、必ず希望の朝があげ染めると信じて、今の時代がどんなに暗い闇であっても「御国が来ますように」と祈って祈って祈って、罪と戦い続ける。そんな私たちの祈りを通して、神は必ず御国を来たらせてくださると、確認いたしました。

今日は、「御心が行われますように、天におけるように地の上にも」という祈りが教えられています。これは主の祈りを解説する際には第三の祈りとされるのですが、実は第二の祈りである「御国が来ますように」との祈りと二つでセットとして考えたほうがよいものです。ヘブライ語では平行法と呼ばれる特徴的な表現形式がありまして、特に詩篇によく見られるのですが、同じような内容を言葉を繰り返すのです。そうすることで、一つの真理に違う角度から光をあてて、事柄をより立体的に浮かび上がらせる。たとえば有名な51篇の冒頭、「神よ、わたしを憐れんでください、御慈しみをもって、深い御憐れみをもって、そむきの罪をぬぐってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。」こういうときに、御慈しみと御憐れみの違いとは、背きの罪と咎の厳密な意味の違いとは、なんてやってもあまり意味はない。同じことを表現を変えて繰り返しているだけです。むしろ二つの類義語があわさって一つの意

味を造っていると考えるのがよい。それと同じように、この主の祈りの第二の祈りと第三の祈りも、二つで一つと考えるのがよいと思います。

そう考えますと、御心が地になるとは、御国が来るということと同じだということになります。御心がなりますように、天におけるように地の上にも、と祈りなさいと教えられています。天においては神がその御心のままに、神がお考えになったとおりにすべてのことが進められていきます。逆に言うと、天とはそのようにして神の御心が完全に満たされるところです。そして、それと同じことが、この私たちの地上の現実においても起こるならば、この地が天になるわけです。そしてそれはそのまま、天の国の完成、御国の完成ということになるわけです。

天の国の完成、それは先に確認したような、一切の罪のない世界の実現です。罪がないということは、神の御心を邪魔するものがないということです。神はもともと、この世界を「まったくよいもの」として創造してくださいました。わたしたちを創造してくださいました。そしてわたしたちにこの被造世界全体をゆだねてください、これを発展させて完成させることへと召してくださいましたのです。それが人間に与えられている根源的な使命です。そのために生み出されたのです。でも、そういう神のご計画を邪魔するのが私たちの罪です。私たちはいまや、とらえがたく病んでしまっている罪人であって、自分の本来与えられている目的に沿って生きることができません。私たちは神様に作られたものですから、創造者である神が一番私たちのことを知っている。いわば取り扱い説明書をもっている。人間の尊厳がもっとも輝き出すためのマニュアルをもっておられる。でも、私たちは決定的なところで故障してしまっていて、神が動かそうと思うとおりに動かないという状態なわけですね。私たちがそういう状態ですから、この世界全体も歪んでしまい、その本来の輝きを 100 パーセント発揮することができなくなりました。神の御心が完全になされるというのは、そういう私たちの罪が引き起こすあらゆる障害、あらゆる抵抗がなくなって、神の願っているとおりに世界が動き出すということです。

そんな時が、必ず終わりの時に与えられる、それが聖書の約束している希望です。でも、わたしたちが「御心がなりますように」と祈るのは、ただ未来を望み見ているだけではありません。これは現在の祈りでもあるのです。今ここにおいて、この地上世界において、あなたの御心がなりますように。私たちの罪に毒された願いではなく、ただ神の願っておられることだけが成し遂げられていく、そんな世界が、今この私たちの現実生活においてもたらされますように。この私たちの心にもたらされますように。それが「御心がなりますように」という祈りの姿勢です。先週の「御国が来ますように」を解き明かす際には、あえて未来を望み見るという面を重視しましたので、今週はこの現在の祈りとしての側面をより強く意識していただきたいと思うのです。

さて、そういう思いで改めて解き明かしをさせていただきたいのですが、今日は特にハイデルベルク信仰問答から学んでみたいと思います。

問 124 第三の願いは何ですか。

答 「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」です。

すなわち、
わたしたちやすべての人々が、
 自分自身の思いを捨て去り、
 唯一正しいあなたの御心に、
 何一つ言い逆らうことなく
 聞き従えるようにしてください、
そして、一人一人が自分の務めと召命とを、
 天の御使いのように
 喜んで忠実に果たせるようにしてください、
 ということです。

これが伝統的な解釈、今この私たちの心が作り変えられ、御心に従って生きることができるように。

「自分自身の思いを捨て去り」とあるのが特徴的です。「我意を捨てる」との翻訳もあります。この言葉を覚えたいと思いました。なぜ捨てねばならないのか。それは唯一正しい神の御心に比べたら、人間の思いは少しも善で無いから。間違いがあるからですね。近代人というのは、人間を過大評価します。近代は神を失ったと言われるがそうではない、自分を絶対化、神化しただけだと言われます。でも私の考え、私の思いなどというのは本当に小さく、間違いだらけのものです。そういう自分の小ささから目をそらすようにして、我こそが正しいと、小さな世界に閉じこもって耳を閉ざしている、だから人の言葉にも聴けないし、神の言葉もまったく耳に入っていない、そんな私たちではないでしょうか。

私は罪ということを説明する言い方の一つとして、自分を神にするということで、神の言葉や戒め、ルールよりも、自分にとって都合のいい自分のルールを優先させて自分を正当化することであると申します。私たちはそういうことをするものです。神様のルールというのはいつも単純です。人を殺してはいけない、盗んではいけない。しかもイエス様は言われましたね、殺してはいけないっていうのは心の中で腹を立ててもいけないってことだ。こう言われて、すなおに聴ける人はいますか。みんな言うと思います、無理って。でもみんな本当は分かっているのです。本当にイエス様が教えてくださったとおりに生きることができるなら、どれだけ私たちは幸せになれるだろうか。だれもが自分のことを中心に考えてしまって、自分のメリットのために他人を利用しようとしている私たちの現実です。そんな思いがぶつかった末に、にっちもさっちも行かなくなっているのが今の世界です。でもそこで、自分を愛するように隣人を愛するという神の御心に、聞き従うことのできる者が増えていったら、きっと私たちは幸せになれる。そうなりたいと思っている。でもなれない。だからその後ろめたさを隠して、自分を正当化するためにあれこれ屁理屈をつけて理論武装する。

さらにたちが悪いことに、そういう時に私たちは、あろうことか神様の名前を持ち出したりしてしまう時もあるということです。「これこそが祈った末に与えられた神様の御心です」なん

て言っちゃって、自分を正当化するということがあるのです。象徴的なのはイラク戦争の始まりの時です。あの時ブッシュ大統領は、一晩寝ないで祈った結果として、神の御心だと判断して開戦を決意したというのです。そういう風にして、「自分自身の思い」を正当化するというのを私たちはするのです。こんな話もありました。ある先生が留学中に会った他教派の牧師さん、ある日突然、日本に帰りますと帰ってしまった。なんでも、聖書を読みながら、イエス様が故郷に帰られたというところに行き当たって、私も故郷に帰らねば、それこそが御心だと確信しましたと言って帰っていかれたそうですが、それは違うだろと思ったそうです。それはあなたが帰りたかっただけだろうと。そんな風にして、「自分自身の思い」を正当化する、そのために、神の名前まで持ち出してしまおう、それが「罪」であります。そういう「自分自身の思いを捨て去り」、「唯一正しいあなたの御心に、何一つ言い逆らうことなく、聴き従えるようにしてください」と、私たちは祈らねばならないなあと、改めて思われます。

イエス様は、このように「祈りなさい」と教えてくださったということを、心に刻みたいと思います。「地において御心がなされる」これは本当に、祈りによってしかなしえないことです。祈って、神の恵みによって、この貧しい心を作り変えていただかなくては、私たちの現実生活において御心がなされるということはありません。祈って求めたいと思います。

今回準備して面白かったのは、ヘブライ語訳の新約聖書では「御心」という言葉がラツォーンとされていたことです。これは詩篇などでは、御旨という風に翻訳されているのですが、どういう風に使われているかを丁寧に見ていくと、この言葉というのは私たちを救いへと導こうとする神様の恵みの思いという意味合いが強いことが分かる。たとえば、詩篇 30 : 6, 8「ひとときお怒りになっても、命を得させることを御旨としてくださる。泣きながら夜を過ごす人にも、喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる」これは「あなたの思いはいつも命にある」という言葉。お怒りになることがあっても、神の思いは私たちの滅びではなく、命にある。この命とは新しい命のことです。イエス・キリストの姿にならう新しい人の誕生。罪深い思いを捨てて、神の思いに従い歩み始めた人というのは本当にキラキラしているものです。それこそ人間本来の尊厳なのです。尊厳が輝いている、愛に満ちた、生き生きとした信仰の命。そこへと私たちを導く。それが神の思いだ、ラツォーンだ。神の思いはいつもそんな私たちの命にある。命へと導こうとしていてくださるのだと詩篇は教えているわけですね。

そんな神様の思いを実現してください。この私のうちに、この貧しい世界に、あなたの思いを満たしてください、あなたの恵みによって、私たちを命へと導いてください。それが「御心になりますように」ということです。この罪に満ちた古い私を十字架と共に殺して下さって、新しい私によみがえらせてください。ただイエス様の十字架と復活の業によって、私を罪から解き放ち、命の道へと進み生かしてください・・・。「御心になりますように」とは、まさにそんな切なる祈りとして、イエス様から教えていただいた祈りなのです。

この主の祈りというのは山上の説教のピークであると、以前にどこかでうかがったことがあ

ります。全体の構造を分析するとそういうことになるということのようですが、あまり腑に落ちないでございました。しかし、山上の説教の解き明かしを進めていくと、この主の祈りにおいて頂上だというのは、確かにそうだと分かってくる。イエス様は山上の説教全体において、この「祈り」へと私たちを招いておられる。厳しい言い方をすれば、この祈りへと追い込んでおられるともいえる。山上の説教を読み進めていく中で、私たちは自分の不完全さに気づかされずにはいないものです。この地上において神の御心をさまたげてばかりの自分の罪深さに、気づかされるのです。でもそこで、あきらめるのではなく、開き直るのではなく、ましてや自分を正当化するために理屈をこねるのではなく、祈りなさいとイエス様は招いておられるのです。君たちは私の言うとおりになんてできないだろ、じゃあ祈るしかないじゃないか。神に求めなさい。あなたの恵みによって、命へと導いてください。神を愛し、隣人を愛し、自分を心から大切にすることができるようにしてください。あなたの正義をなさせてください。この心を作り変えてください。そしてあなたの御心と一つにさせてください。この世界に御心を満たしてください。そのように祈りなさい。祈るしかない自分を認めなさい。人間の貧しさを見つめなさい。そのようにしてイエス様は、ある意味で私たちを追い込もうとしておられるのだと思います。祈るしかない自分を認めるのは、私たちにとって悔い改めのはじめです。そうして私たちが砕かれていくなら、この私のうちに確かに神の支配がはじまります。

山上の説教の一番初めには、こんな宣言がありました。「幸いだ、心の貧しい人々、天の国はその人たちのものである。」自分には何もない、心まで貧しいと、悔い砕かれている、そのあなたが幸いだ、喜んでいいのだよ、そのあなたのところに、神様は訪れてくださるとイエス様は祝福して下さったのです。私たちも今、新たな悔い改めをもって祈りましょう。

主よ、あなたの御心がなりますように

あなたの恵みによって、私を作り変えてくださいますように。

わたしたちやすべての人々が、

自分自身の思いを捨て去り、

唯一正しいあなたの御心に、

何一つ言い逆らうことなく

聞き従えるようにして下さいますように

そして、私たち一人一人が自分の務めと召命とを、

天の御使いのように

喜んで忠実に果たせるようにして下さいますように